

ともに語る



2025 年 3 月 24 日発行

本校「センター的役割」のまとめ

「ともに語る」地域版の 89 号は、今年度の「帯広養護学校のセンター的役割」を振り返ります。今後も各関係機関と連携をしながら、地域における特別支援教育のセンター的機能の発揮に努めていきます。

1 巡回相談（年 1 回程度、本校からコーディネーターを派遣し、助言をします。）

(1) 実施園、校数（単位：園、校）

	幼保	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	合計
パートナーティーチャー派遣事業	1	22	2	1	0	26
地域支援	0	0	2	0	0	2
専門家チーム	0	0	0	0		0
合計	1	23	3	1	0	28
教育支援委員会	帯広市 5 回 音更町 3 回 浦幌町 2 回					
特別支援児保育巡回指導	帯広市 4 回					

(2) 主な助言内容

- ア 保育園等～発達段階を考慮した気持ちの切り替えの方法、体幹の鍛え方、日常の園生活をとおり発達を促す方法、療育施設との連携などについて助言しました。
- イ 小学校～SST、児童生徒の障がいに応じた手立て、発達特性に応じた指導法、家庭支援などについて助言しました。
- ウ 中学校、高校～校内支援や研修のあり方、保護者や関係機関との連携、進路に向けた支援方法などについて助言しました。

(3) 傾向

十勝の大きな傾向や課題として、以下の 2 点が考えられました。

- ア 就学や進学における学びの場の選択について
- イ 学校内における特別支援教育の校内体制づくり、家庭、関係機関との連携

2 教育相談（就学、進学、高等部受検や転学に関わる相談、また、発達に関する相談などです。）

(1) 実施件数（のべ数、単位：件）

	就学前	小学生	中学生	高校生	合計
入学相談	12	14	47	0	73
発達相談	0	0	0	0	0
合計	12	14	47	0	73

(2) 相談内容

- ア 入学相談～本校小学部・中学部に新・転入学、高等部に入学を希望される人を対象とする「本校入学に関わる教育相談」では、本校の説明、児童生徒の様子把握、体験学習（高等部新入生・転入学希望のみ）を行っています。
- イ 発達相談～発達について気になる幼児から高校生までを対象に、対象者の様子を把握し、特別支援に関わる情報提供等を行っています。

(3) 本校の入学に関わる教育相談について

- ア 小・中学校に在籍されている方は、学校からの依頼文と教育相談受付票が必要になります。
- イ 本校の教育相談は、例年 5 月下旬から 2 月中旬の期間で行っています。年長、小 6、中 3 は 12 月中旬まででお願いしております。例外はありますが、基本的にこの期間内に実施できますようご協力をお願いいたします。 ※ 詳細は、本校ホームページをご覧ください。

居住地校交流のまとめ

本校小・中学部在籍の児童生徒が、自分が住んでいる地域の公立学校と交流を行う「居住地校交流」です。今年度は、以下のように実施することができました。

	交流校名	回数(合計)	内容
帯広市立	森の里小学校	4回	ア 直接交流(訪問して交流) (ア) 通常学校で音楽や体育などの授業を一緒に受ける。 (イ) 特別支援学級の朝の会や自立活動、音楽や体育と一緒に参加する。
	緑丘小学校	1回	
	稲田小学校	1回	
	帯広第二中学校	1回	
	翔陽中学校	2回	
音更町立	鈴蘭小学校	1回	イ 間接交流(訪問しないでの交流) (ア) 手紙のやりとりをする。 (イ) 通信などのやりとりをする。
	下音更小学校	1回	
	共栄中学校	2回	
幕別町立	札内北小学校	2回	

気になる子どもの支援

＜分かりやすい教師の意図の伝え方＞

私たちには、生活において体を使って様々なことを体験する中で、自然に感覚的に身に付いている言葉(観念)があります。しかし、障がいのある子どもたちには、イメージできるものが少ない場合があります。そのため、子どもの生活経験や知的な理解力に配慮して、その子どもがイメージできる言葉を選ぶ必要があります。

まだ語彙が少ない子どもには、授業をとおして伝えたい言葉を、繰り返し意図的に用いることが大切です。その際、指示を出すためだけの言葉だけではなく、「分かる言葉」を増やします。「分かる言葉」が増えれば、子ども自身が見通しをもてるようになり、主体的に活動に向かおうとします。「うれしいね」「やった～」「どうぞ」「もう一回」など、簡単で響きの良い言葉を使っていきます。

言葉での指示が分かる子どもでも、「どんな」言葉なら分かるのか、「例え話」が伝わるのかなどによって、指示の出し方は変わります。抽象的なことがわかりにくい段階の子どもには、あいまいな表現では伝わりません。相手の気持や物事の背景を想像しにくい子どもや、含みのある言い方が分かりにくい子どももいます。このような子どもに対しては、「もう少し待ってね」ではなく、「あと3分待とうね」「これ(砂時計)の砂が落ちるまで待とうね」や、「順番を守ろう」ではなく「○さんの次は、△さんだよ」など、具体的に伝えることが大切です。

また、一度に多くのことを伝えると混乱したり忘れたりする子どももいます。指示を簡潔にして、一回に一つの指示にするとよいでしょう。「○○したら○○して、そのあと○○するね」のように、複数のことを一度に伝えと、分からなくなってしまう。 (文責 木村)



『ギフテッド』の個性を知り伸ばす方法

(編・著 片桐 正敏、小泉 雅彦、日高 茂暢 他) 小学館

パートナーティーチャー派遣事業では、様々な子どもたちの発達や学習の相談を受けています。(以下は、本書のまえがきより)「本書は『ギフテッド』と呼ばれる子どもや知能の高い子どもの個性を知り、伸ばす方法についてわかりやすく解説されています。発達障害とギフテッドの違いなど、まさにいま、子どもの才能ある個性を知り、伸ばす方法が満載となったギフテッドの解説書です。今までのギフテッド教育に足りなかったことや、ギフテッドのこれからなどが、詳しくわかります。」

今年度最終号となりました。清末、下津が担当しました。1年間、ありがとうございました。